

# ふくい社会福祉

4  
No.400



## 温故知新 ～一途に社協道～



和久里壬生狂言保  
平成二年

和久里壬生狂言は福井県小浜市和久里の西方寺境内に、南北朝時代から室町時代の南朝代官である長井雅楽介が、戦いに敗れ出家し、建立された宝篋印塔、通称『市の塔』。区民からは『いしどうさん』と愛される石塔の7年供養祭として6年に一度（十二支の子と午の年）奉納される狂言です。

昔から、京都と小浜は通称『鯖街道』を通じて政治・経済・文化等と密接な交流があり、江戸時代に、京都の壬生狂言が伝わったのが始まりで、現在では京都以外で壬生狂言が残っているのは、和久里のみだと聞いています。

明治45年に和久里区の住民が受け継ぎ、6年ごとに狂言を奉納してきましたが、昭和17年を最後に戦争や戦後の混乱、また昭和28年の大水害などにより狂言の奉納は長く途絶えていました。

やがて、日本全体が急速に発展し、高度成長期をむかえ、生活水準も向上しましたが、地域文化の向上も必要だと強く感じたことが復活させるきっかけとなりました。

実際、実現に向けて動き出すと様々な困難が待ち構えていました。壬生狂言を伝承していくにも、その時代のことを教えてもらう人たちが減少していること。また、それ以上に、昭和28年の大水害で張子のお面や衣装も流されてしまっていたことなど、克服する課題が山のようにありました。しかし、和久里の者として消えゆく伝承文化を蘇らせるとともに、地域への誇りと世代間交流を深める試みとしてなんとしても成功させるんだ、という思いで青壮年（甚六会）が中心となって取り組み、昭和53年の復活に成功しました。



また、昭和59年の奉納では、手作りの木製の面を使おうと自分たちで面づくりに取り組みました。初心者ばかりでしたがなかなか良い出来栄で、その面は現在でも使われています。さらに、現在では衣装も自前であり、舞台から供養棟からすべてが手作りの狂言です。

今回は、さらなる取り組みとして、次世代を担う若者から面づくりに挑戦する者ができており、面づくりを通して自然な形で世代間交流が実現していることを心強く思っています。このように、若い世代に和久里壬生狂言がしっかりと受け継がれていることを目の当たりにすると、感慨深いものがあります。

6年に一度の和久里壬生狂言奉納です。和久里壬生狂言奉納の成功に向けて地域の人々の力を結集して本番に臨みたいと思っています。



### 温故知新

1年を通して行われる祭りには「祈りや感謝そして願い」といった人の願いがこめられています。だからこそ代々受け継がれてきた祭りを大切に守り、次世代へと繋いでいます。

そのことを踏まえ、地域と密接な関わりがある祭りに焦点をあて、福井県内の祭りをシリーズで掲載していきます。



# 平成26年度事業がスタート

の“しあわせ”な暮らしを阻むさまざまな福祉課題の解決のため、絆やつながりを土台に展開する平成26年度の事業をした。

に基づく事業活動の総括と第4次計画の策定  
 トワークを活かした支援体制と仕組みづくり  
 (キャリアパス) 体系の強化

## 3 福祉事業の経営に関する相談支援体制の強化

- (1) 巡回相談の実施
- (2) 社会福祉施設経営相談と経営課題に関する研修の実施
- (3) 施設経営相談Q & Aの充実

## 4 福祉サービスの評価・公表制度を活かした事業所支援

- (1) 介護サービス情報の公表
  - ◆ 指定情報公表センター事業の実施
  - ◆ 指定調査機関事業の実施
- (2) 福祉サービス第三者評価推進組織の運営
- (3) 福祉サービス第三者評価事業の実施
- (4) 地域密着型サービス外部評価事業の実施
- (5) 福利厚生センター(地方事務局)事業の推進
- (6) 民間社会福祉施設職員退職共済事業の実施など

## 5 県域の福祉ネットワーク組織や職能団体への支援

- (1) 福祉施設職員異種施設交流事業の実施
- (2) 社会福祉施設災害対策支援
  - ◆ 防災担当職員研修会の開催
  - ◆ (新) 種別協議会災害応援連絡会議の運営など
- (3) 保育部会活動
  - ◆ 第55回福井県保育研究大会(越前市)の開催など
- (4) 福祉施設等種別協議会活動の支援
  - ◆ ブロック社会就労センター研究協議会(福井大会)運営支援など

## 6 福祉サービスの苦情解決の機能と支援体制の強化

- (1) 福祉サービス苦情解決事業の推進
  - ◆ 苦情解決体制等に関する事業所訪問相談の実施
  - ◆ 福祉サービス苦情解決セミナーの開催など

## 7 総合相談・自立生活支援体制の強化

- (1) 生活困窮者支援体制の構築
  - ◆ 自立促進支援センターの設置運営
  - ◆ 生活困窮者就労・自立支援モデル事業(受託)の実施
- (2) 生活福祉資金制度の実施
- (3) 日常生活自立支援事業の実施
  - ◆ 契約締結審査会の運営等
  - ◆ 福祉サービス利用援助事業の推進(17市町社協へ委託)
- (4) 市民後見人養成講座の開催

## 8 相談・支援機関とのネットワークの強化

- (1) 高齢者権利擁護推進事業の実施
  - ◆ 高齢者専門相談窓口、高齢者権利擁護相談窓口の開設
  - ◆ 高齢者権利擁護対応専門職チームの派遣など
- (2) 福祉用具・住宅改修関係専門相談員の登録、出張相談

## IV 元気で信頼される福井県社協づくり

### 1 顕彰、協賛事業を通じた広域の福祉活動基盤づくり

- (1) 第61回福井県社会福祉大会の開催
- (2) (新) ふくい地域福祉実践賞による顕彰
- (3) 第3回ふくいチャリティーアート展の開催
- (4) (新) 福祉車両(積善会号)寄贈事業の実施など

### 2 福井県社協の発展強化を図る経営分析等の仕組みづくり

- (1) 職員の育成・業務支援体制の強化
- (2) 「第3次ふくい地域福祉プラン21」の進行管理と総括
- (3) (新) 「第4次ふくい地域福祉プラン21」の策定

### 3 福井県社協におけるリスクマネジメント体制強化の推進

- (1) 働きやすい職場環境・職場風土をつくる仕組みづくり
  - ◆ 職員衛生委員会活動の推進
  - ◆ メンタルヘルス対策の推進など

### 4 福井県社会福祉センターの指定管理業務の推進

- (1) (新) 指定管理の受託、運営(第3期)
  - ◆ 災害時避難所運営体制(備蓄品整備等)強化
  - ◆ (新) 耐震補強工事の進行管理
  - ◆ (新) セルフ商品販売会の地域開放など

### 5 幅広い関係者・団体との交流・協働による組織価値向上

- (1) 相互に連携・協働する取組みとネットワークの強化
  - ◆ 災害時福祉・介護分野広域ネットワークづくり ※再掲
  - ◆ 第57回国体・第18回全国障害者スポーツ大会準備支援

### 6 自主財源を活用した福祉活動の基盤づくり支援

- (1) 各種基金の設置運営と運用益を活かした活動支援

### 7 業務推進を担う福井県社協職員の能力開発

- (1) 職場研修制度に基づく職員のスキルアップ
- (2) 業務の進行管理・目標管理等に関する仕組みの強化

### 8 役職員間のコミュニケーションの推進

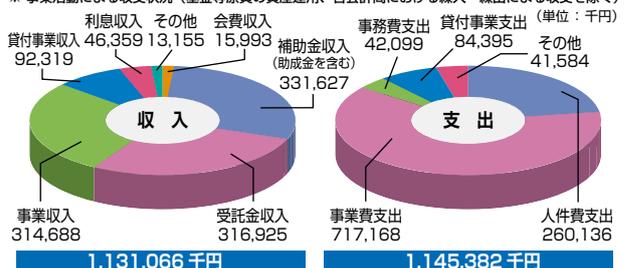
- (1) 社内マガジン「ぴーす」の発行
- (2) 「つないでキラリ☆プロジェクト」の推進
- (3) (新) 事業活動啓発ツール(名刺等)の企画開発など

### 9 財務状況や事業活動に関する迅速で適切な情報開示

- (1) 広報誌、ホームページ等を通じた関連情報の提供
  - ◆ ふくし広報コンテスト2014の実施
  - ◆ 福祉情報サロン機能(蔵書管理システム等)の強化
  - ◆ 情報紙「ふくい社会福祉」の発行(年10回)など

### 平成26年度収支当初予算の概要

\* 事業活動による収支状況(基金等原資の資産運用、各会計間における繰入・繰出による収支を除く)



平成26年度当初予算による福井県社会福祉協議会の事業活動による収支状況について、概要(イメージ)をご理解いただくためにグラフとして表現したものです。このため、基金等原資の資産運用、各会計間における繰入・繰出など、その他の活動による収支についての予算は反映させておりません。

## I 福井でのすこやかな暮らしを支える つながりの輪づくり

### 1 つながりの輪で支えあう県民意識の創造

- (1) 明るい長寿社会づくり推進事業
  - ◆(新)アクティブシニア(アクション助成等)養成支援
  - ◆第27回全国健康福祉祭(栃木県)への選手派遣
  - ◆ふくい健康長寿祭2014(福井市)の開催
  - ◆情報誌「福悠人」の発行(年6回)
  - ◆高齢者ラジオ放送講座の開講
  - ◆(新)タブレット端末講習会の開催など
- (2) 介護実習・普及センター事業の実施
  - ◆家庭介護講座、介護出前講座、介護公開講座の実施
  - ◆(新)中日本ブロック連絡会議の開催など

### 2 地域でつながりの輪づくりに参加する人材の発掘と養成

- (1) 地域支え合い体制づくり人材育成事業の実施
  - ◆地域見守りフレンズ育み講座の開催
  - ◆地域コミュニティパートナー養成研修の開催

### 3 「つなぐれボランティアの輪推進運動」の啓発

- (1) 「つなぐれボランティアの輪」推進強化事業の実施
  - ◆ボランティア月間(9月)の広報啓発
  - ◆つながりフォーラム2014(運動5周年記念)の開催
  - ◆ボランティア作文コンクールの実施
- (2) 福井県まごころ基金助成事業の実施
  - ◆民間の先駆的・開拓的な事業に対する助成

### 4 地域ぐるみの「福祉教育」の推進

- (1) 地域ぐるみ福祉教育推進事業の実施
  - ◆市町社協による地域ぐるみの福祉教育活動への助成
- (2) 市町社協ボランティアセンターの実践研究
  - ◆地域支え合い体制づくりの人材育成
  - ◆地域ぐるみ福祉教育推進事業の成果検証

### 5 地縁・知縁のつながりを広げる協働・共同の場づくり

- (1) 施設・社協ボランティア担当職員資質向上研修
- (2) 福井県民生委員児童委員協議会との連携
- (3) 福井県企業等ボランティア・社会貢献連絡会への支援
- (4) 福井県災害ボランティアセンター連絡会との連携
- (5) ふくい県民活動・ボランティアセンターとの連携

## II 福井の福祉活動をけん引する 社協のブランドづくり

### 1 住民の福祉活動を支える社協の「見える化」の推進

- (1) 「県市町社協会長会」の運営支援
- (2) 市町社協課題解決戦略会議の開催
- (3) 市町社協トップセミナーの開催など

### 2 住民の福祉活動を応援するワーカーのスキルアップ

- (1) 社協ワーカーの実践力向上に対する研修の実施
- (2) 社協ボランティアセンター基幹職員の実践力向上支援

### 3 住民の福祉活動を活かした地域のセーフティネットの構築

- (1) 地域で支えるセーフティネットづくりセミナーの開催
- (2) 災害時における社協相互支援体制の強化
  - ◆相互支援のための実地訓練の実施
  - ◆東海北陸ブロック県・名古屋社協災害応援協定による対応

## 「第3次ふくい地域福祉プラン21(5か年)」最終年

# 福井県社会福祉協議会

社会的孤立、経済的困窮、虐待や権利擁護など地域で決に加え、社会福祉法人としての社会的な責務を果たす業計画、当初予算が先の理事会、評議員会で承認されま

### 重点課題

- ① 「第3次ふくい地域福祉プラン21」
- ② 生活困窮者等に対する重層的なネッ
- ③ 福祉・介護人材に対する生涯研修

- ◆市町社協職員の防災士講座受講支援
  - ◆北陸3県社協共同研修会の開催(富山県・石川県と共催)
- (3) 災害時福祉・介護分野広域ネットワークづくり
    - ◆福祉・介護分野の広域ネットワーク基盤づくりなど

### 4 市町社協を元気にする経営課題の分析と支援策の強化

- (1) 市町社協強化に向けたステップアップミーティング
- (2) 社会福祉法人新会計基準の移行支援

### 5 市町社協の「見える化」への支援

- (1) 「社協による地域福祉推進研究会」の設置運営
  - ◆(新)地域における生活困窮者支援体制づくり
  - ◆(新)福祉教育実践プログラムづくり

## III 福井の福祉を高い専門性で支える サービスの基盤づくり

### 1 福井の福祉・介護を支える専門職像の明示と育成策の強化

- (1) 福祉職員生涯研修の実施
  - ◆(新)福祉職員生涯研修(キャリアパス対応)の実施
  - ◆(新)福祉職員育成(ほやほや出前研修)の実施など
- (2) 福祉職員専門課題別研修の実施
  - ◆人材定着のためのワークステージ向上研修
  - ◆障がい者への理解を深めるための研修
  - ◆就職内定者セミナーなど
- (3) 福祉職員業種別・職種別研修の実施
  - ◆保育士(主任、中堅・リーダー等)研修の実施
  - ◆介護職員等訪問指導の実施など
- (4) 介護支援専門員養成、資格取得支援研修の実施
  - ◆介護支援専門員専門・更新研修の実施
  - ◆介護支援専門員試験準備講習会、模擬テストの実施など
  - ◆介護支援専門員実務研修受講試験の実施
- (5) 研修内容等のデータ化、講師台帳の整備

### 2 福井の福祉・介護を支える人材の発掘と定着の強化

- (1) 福祉・介護人材マッチング機能の強化
  - ◆小中学校児童・生徒の介護事業所職場体験の実施
  - ◆福祉の仕事説明会(小中学校や地域)の実施など
- (2) 介護人材確保基盤の整備
  - ◆(新)事業所訪問による人材確保・育成支援
  - ◆(新)専門家の派遣による個別課題への対応
- (3) 学校訪問・介護職場体験の推進
- (4) 介護人材新規就業支援
- (5) 福祉人材センター、無料職業紹介事業の実施
- (6) ふくい福祉就職フェアの実施
- (7) ふくしジョブミニパーク(地域型ミニ面談会)の実施
- (8) 義務教育教員免許志願者に対する介護等体験の実施

# 福島県相双地域等への介護職員等の応援事業 ～現地活動レポート～

福島県社会福祉法人経営者協議会（白藤昭武会長）では、東日本大震災で被災した福島県相双地域に所在する社会福祉法人（特別養護老人ホーム）への介護職員の派遣を通じて応援活動を行っています。

今回、本県経営協会法人から被災施設の応援にあたった4名の施設職員の方々の現地活動レポートをご紹介します。



(福)わかたけ共済部  
グレースフルわかたけ  
中野信子さん

震災の年、岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市へ災害ボランティアで参加し、出来る事がまだあるのではと感じていた時に今回の募集があり、同じ施設職員として微力ながら応援できたらとの思いでした。職員一丸となり「施設完全復活」への熱い思いと前向き姿勢（どんな事にも負けない福島のご根性）を仕事を通じて感じ、常に利用者様の思いを汲み取り、福島なまりの笑いが絶えない温かい陽だまりのような施設をつ



(福)わかたけ共済部  
グレースフルわかたけ  
吉田年枝さん

くっていました。職員の仮設住宅で仕事への熱い話を聞き、福井には自分を待っている施設、利用者様、仲間、家、家族がある事の有難さ、幸せをあらためて痛感しました。

震災のあった年の5月末、岩手県陸前高田市に互礫撤去のボランティアに行かせてもらいましたが、たった2、3日で何か出来たのかという自責の念にかられ、また何かお役に立てればとの思いが動機でした。原

## 応援先施設

特別養護老人ホーム  
花ぶさ苑

<http://hanabusa-en.com/>

## 応援期間

平成 25 年  
10月1日～11月30日



(福)光道園  
ライトホープセンター  
眞家昌之さん

普段は障がい者支援施設で生活支援員として勤務していますが、何ら

発問題で避難を余儀なくされ、どんな状況下でも明るく前向きに頑張る職員さん達から、沢山の元気を貰いました。何かお手伝い出来たらとの思いで参加させていただき、改めていつもと変わりなく過ごせる事の有難さ、災害時に施設として何をするべきかを考えることが出来た良い機会となりました。



(福)足羽福祉会  
愛全園  
川井勝志さん

かの形で被災地での復興支援に参加したいという思いと、他施設を知る良い機会だと思い参加させていただきました。実際は被災地という現状や勝手の違う職場での戸惑い、自身の介護技術の未熟さ等を痛感することもありましたが、現地の利用者の方・スタッフとの交流、災害時の対応を知る機会など、大変貴重な経験をさせていただきました。

被災地に対して何か自分ができる事をしたという思いと自分が働いている施設とは異なる環境を経験したいという思いから志願しました。施設では職員の数が少なく日中は応援職員とパート職員だけという日もあり、マニュアルもなく情報が少ない中で利用者様の介助を行う事に戸惑いや不安を感じることもありました。しかし、元気で気兼ねなく接してくれる利用者様の温かさや、少ない人数の中で何とか利用者様のニーズに応えようとする施設職員からは学ぶことも多く、この経験を自らの現場でも活かしていきたいと思っています。

# 福井県内における社会福祉施設種別協議会

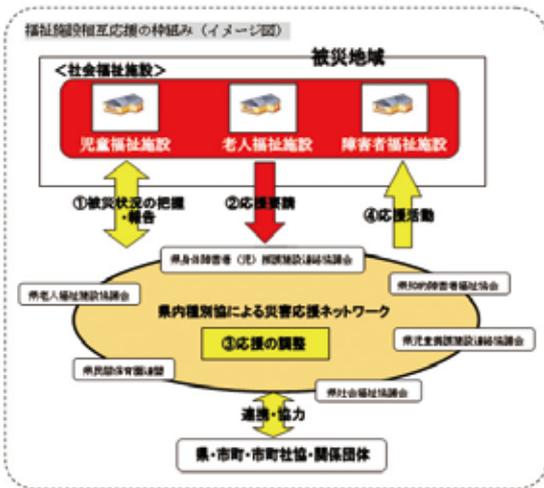
## 相互間の災害時応援協定の締結

### 県内社会福祉施設ネットワークによる災害時の相互応援体制の構築

東日本大震災の発生から3年目を迎えた3月11日、福井県社会福祉センターにおいて、県内の高齢・障がい・児童の各分野の施設で構成する種別協議会5団体と福井県社会福祉協議会による災害時相互応援協定の調印式が執り行われました。



先の東日本大震災において特に岩手、宮城、福島3県の社会福祉施設の被害は甚大で、多くの施設でその機能が停止し、施設利用者が医療などの十分なケアを受けられなかったり、受入れ先の確保が困難であったことから衰弱したり、亡くなるという痛ましいケースもありました。高齢者、障がい者、子ども等何らかの支援を必要とする人をはじめ福祉施設においては、施設利用者の健康や生命を守ることはもとより、災害時においても必要な支援が途切れることなく、継続して提供できる体



#### ＜協定締結団体＞

- 福井県老人福祉施設協議会
- 福井県身体障害者(児)援護施設連絡協議会
- 福井県知的障害者福祉協会
- 福井県児童養護施設連絡協議会
- 福井県民間保育園連盟
- (福)福井県社会福祉協議会

#### ＜応援の内容＞

- ①応援に必要な人材の派遣
- ②食糧、飲料水および生活必需品の提供
- ③避難および生活支援に必要な場所の提供
- ④応援に必要な資機材および物資の提供

制や仕組みが整えられ、日頃から適切に機能することが重要です。このようなことを踏まえ平成25年2月から、本県で発生した大規模災害により被災した施設への応援のあり方について、関係協議会により検討を重ねた結果、被災施設に対する応援について施設の種類を越え、横断的・組織的に行うことについて合意が

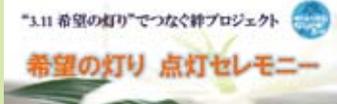


各団体代表による協定書への調印の様子

今後、いつ発生するか分からない災害に備え、平時から各団体間で意見交換等を行い連携を深めながら、災害発生時には本協定にもとづく迅速かつ適切な応援活動を通じた施設利用者等の安全安心の確保が大いに期待されます。

### あれから3年…灯りに想いを重ね合わせて

## “3.11希望の灯り”でつなぐ絆プロジェクト



3月11日で3年を迎えた東日本大震災。

失われた尊い命や今なお懸命に復興への歩みを進めるたくさんの人たちの姿に想いを馳せようと、今年も県内の社協で一斉に「3.11希望の灯り」を点灯しました。

その後、同日付で災害時の相互応援協定を調印した社会福祉の各種別協議会(5団体)会長と県社協の伊藤副会長がキャンドルで灯りをつなぎながら、最後に、越前焼の燭台への点灯を行いました。

震災を風化させることなく、「私たちにできること」をこれからもみんなで考え、行動する…そんな想いを確認したセレモニーでした。



関係者30名が出席したセレモニーでは、まず地震発生時刻に合わせて黙とうを行いました。



ご活用ください！

# 福祉・介護職場での人材確保・定着のために

～ 平成 26 年度 福井県福祉人材センターの取り組み ～

事業名	概要（取り組みメニュー）
<p>雇用を創出！ <b>介護雇用プログラム事業</b></p> <p><b>ねらい</b></p> <p>介護分野への新規就職希望者に対して、介護現場で働きながら介護の資格を取得することができるよう支援します。</p>	<p>県内介護保険事業所などからの求人登録および新規就職希望者の求職申込みを受け、採用を決定した事業所は有期雇用（6か月のトライアル雇用）を行います。</p> <p>また、本事業による就業者はトライアル雇用中に介護職員初任者研修を受講します。<b>（資格取得支援）</b></p> <p>※ 給与、受講料は一定の範囲内で全額助成します。 ※ 職場定着支援を目的とした初任者向けセミナーを実施します。</p> 
<p>求人・求職のマッチングを強化！ <b>福祉・介護人材マッチング機能強化事業</b></p> <p><b>ねらい</b></p> <p>専門員による求人・求職のマッチングを行うとともに、地域の中で潜在的な介護人材の発掘、資格取得支援、就業支援を一体的に行います。</p> 	<p>県内介護保険事業所などからの求人登録および新規就職希望者の求職申込みを受け、採用専門員を配置し、次の事業に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① <b>事業所訪問</b>（求人事業所開拓、新規就業者の悩み相談等）</li> <li>② <b>移動相談会</b>（丹南地区、奥越地区、福井地区（ユウ・アイふくい））</li> <li>③ <b>求職者の就職前支援</b>（出張ガイダンス、職場体験調整等）</li> <li>④ <b>職業訓練者の求職登録説明</b> 職業訓練会場に向いての仕事説明や求職登録促進</li> <li>⑤ <b>福祉人材センター相談窓口</b>（マッチング、キャリアアップ相談等）</li> <li>⑥ <b>地域に向いての訪問説明会・職場体験等</b></li> </ol>
<p>職場での人材活用・定着促進を支援！ <b>介護人材確保基盤整備事業</b></p> <p><b>ねらい</b></p> <p>介護事業所の組織管理者に専門家がアドバイスを行い、人材の戦略的活用、労働環境改善などにより人材の定着を図ります。</p>	<p>専門員を配置し、次の事業に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① <b>事業所訪問</b> 人材面の課題把握、働く上での悩み等に対する相談支援</li> <li>② <b>人材マネジメントセミナー</b> 管理者等を対象とした人材活用に関するセミナーを開催</li> <li>③ <b>専門家派遣</b> ①・②で解決できない専門的な個別課題については、組織経営や人材マネジメントなどに精通した専門家を介護事業所に派遣し、人材の確保・育成・定着にかかる課題解決に向けた支援を実施</li> </ol> 
<p>福祉・介護職のイメージアップ！ <b>学校訪問・介護職場体験事業</b></p> <p><b>ねらい</b></p> <p>これからの社会を担う若者に対し、学校へ向いての説明会、福祉職場体験等の実施により、福祉・介護職の好感度アップ・理解普及を図ります。</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>① <b>高校生介護職場体験</b> 施設体験等により福祉・介護の職場への関心を向上 ○ 講演+施設体験（半日）型 ○ 施設体験（1日）型</li> <li>② <b>小中学校訪問説明会</b> 福祉・介護の現場職員等を学校へ派遣し、福祉・介護職の理解普及を促進 ※ 介護実習・普及センター「介護出前講座」と連携</li> <li>③ <b>介護職場見学・体験</b> 小中高生のグループ単位での福祉・介護施設での見学・体験会を行い、福祉・介護職の理解普及を促進</li> </ol>
<p>職員の育成・定着のための研修を用意！ <b>キャリアパスを意識した研修体系</b> （福井県社会福祉研修所）</p> <p><b>ねらい</b></p> <p>福祉・介護職員が自らキャリアアップの道筋を描くことができ、それぞれの段階に応じて必要な能力向上を支援します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分のキャリアアップを具体的にイメージして、自主的・積極的・継続的な研修受講ができるように「研修受講履歴管理ノート（仮）」を作成・配布します。</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① <b>キャリアパス対応生涯研修課程【階層別】</b>  <b>【職員に…】</b> それぞれのキャリアパス（キャリアの進路の道筋）を展望できることで、自身のキャリアデザイン（めざす未来の姿）を描くことを支援  <b>【事業所に…】</b> キャリアパスの構築を通じ、職員に将来の道筋を示せるとともに、これに沿った職員育成施策を確立・実施することを支援  <b>【対象階層】</b> 初任者、中堅職員、チームリーダー、管理職員、上級管理職員（※ 上級管理職員は、全社協・中央福祉学院で実施）                      ※ フォローアップ研修もあります。                 </li> <li>② <b>人材定着のためのワークステージ向上研修</b> 人材定着のために管理者層として必要な視点を学ぶ</li> <li>③ <b>就職内定者応援セミナー</b> 就業前に、社会人・組織人・福祉人として必要な知識・スキルを学ぶ</li> </ol> <p>※ その他、様々な課題別研修を用意しています。 福井県社協ホームページ <a href="http://www.f-shakyo.or.jp">http://www.f-shakyo.or.jp</a> にて随時案内！</p> 

福井県福祉人材センター

TEL 0776-21-2294 FAX 0776-24-4187 Eメール：manp@f-shakyo.or.jp  
福井県社協ホームページ <http://www.f-shakyo.or.jp>

# 福井県介護実習・普及センター

## 介護出前講座

民生委員・老人会の方必見!!

介護講座を開催しませんか?  
介護のプロがあなたの地域へ出かけ、介護する人も介護される人も、負担の少ない楽しく介護法をお教えます。

### テーマ

- 腰痛にならないための体の起こし方
- 食事の工夫やお世話のしかた
- 排せつのお世話のしかた
- 認知症のお世話について など



## 専門相談員派遣事業

ケアマネージャーの方必見!!

環境整備にぜひご利用ください!  
建築士・福祉用具専門相談員・作業療法士が対象者のお宅に伺い、福祉用具の導入や住宅改修の相談に応じます。

### たとえば

- 廊下に手すりを取り付けたい…
- トイレを和式から洋式に変えたい…
- 新しい福祉用具を購入したい… など



お問い合わせ・お申込先 **福井県介護実習・普及センター**

〒910-8516 福井市光陽2丁目3-22 福井県社会福祉センター内 1階  
TEL: 0776-24-0086 FAX: 0776-24-0063

## 寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

3月19日(水)

寄付者

トータル・ライフ・コンサルタント  
福井会様(鯖江市)  
50,000円



トータル・ライフ・コンサルタント福井会様

3月28日(金)

寄付者

一般社団法人 福井県電業協会様(福井市)  
300,000円



福井県電業協会様

社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

## 平成26年度 福井県社会福祉協議会新事務局体制

専務理事 五十嵐 嘉也  
事務局長 永松 真  
事務局次長 藤田 康彦  
事務局次長(総務) 土屋 秀樹

### 総務企画課

課長(事務取扱) 土屋 秀樹  
総括主任 平田 由美  
主任 横山 重人  
主任 高田 勝之  
主任 小澤 永嗣  
主査 大嶋 民恵  
嘱託 佐藤 麻美  
臨職 岡田 三千代  
主査(県出向) 田島 雄二

### 福祉のまちづくり推進課

課長 杉本 吉弘  
課長補佐 岩田 さおり  
総括主任 吉田 孝博  
主査(県派遣) 井関 知恵美  
主事 田中 大士  
嘱託 蟹瀬 千春  
嘱託 内田 武夫  
嘱託 内藤 正弘  
嘱託 木村 真佐枝

(福井県自立促進支援センター)

所長 北島 忍  
主任 武藤 功士

嘱託 坂口 法子  
嘱託 宮脇 憲昭  
嘱託 鰐淵 幸子  
嘱託 白崎 久美  
(嶺南センター)

嘱託 道上 江利子  
(嶺南センター)  
嘱託 大塚 恵子  
臨職 堂下 かず子  
臨職 村上 博子

### 福祉サービス支援課

課長 広部 喜寛  
主任 山城 康雄  
主任 山本 純江  
主任 佐藤 美栄  
主査 小澤 澄子  
臨職 木村 理恵子  
(社会福祉施設経営指導室)  
室長(兼務) 広部 喜寛  
嘱託 清川 清治  
嘱託 笹川 裕一

(運営適正化委員会)

事務局長(兼務) 藤田 康彦

### 福祉の人づくり支援課

課長 田中正樹  
課長補佐 島 琴美  
主任 銚 碯直文

主任 堂前 喜靖  
主査 福田 良通  
主事 宮川 鉄平  
主事 佐藤 公紀  
嘱託 関戸 憲治  
嘱託 村田 紀一  
嘱託 玉邑 幸夫  
嘱託 寺岡 明子  
臨時 西川 かず菜

### すこやか長寿課

課長 金牧 裕美  
主任 紺井 知奈  
主任 小澤 和弘  
主事 青柳 知里  
嘱託 前川 眞子  
講師 西尾 桂子

(嶺南地域福祉相談・介護実習普及センター)

所長 吉田 覚  
主任 加藤 典子  
嘱託 橋本 純子

### 福井県民生委員児童委員協議会

事務局長(兼務) 藤田 康彦  
職員 山本 正栄

平成26年4月1日付

# 未来に笑顔



## Profile

坂永 好美 さん (越前市)

社会福祉法人 慈生会 水仙園  
看護職 11年

このコーナーでは、「笑顔 (スマイル)」をキーワードに福祉職の方々に登場いただき、福祉の現場で活躍しているからこそ『見える』『言える』、福祉の魅力について語っていただきます。

## 福祉職に就いたきっかけ

看護師の資格を取得してから、病院の現場で働いていました。

結婚や出産などで家庭環境が変わり、子どもも小さかったので、できるだけ近くに勤めたいと思っていました。知人から地域の施設を紹介されたことと自分自身も施設に興味もあつたため、お世話になることになりました。働き始めたころは、病院という『治療の場』と特養という『生活の場』の違いに悩みました。

病院は医師の指示に基づいて仕事をしますが、特養には医師が常駐していないため、自分で判断しなければならぬことも多くどうすればよいのか分からず、とても辛い時期もありました。

## 目標達成

全国老人福祉施設協議会が科学的介護実践講座として、平成25年度介護力向上講習会福井分校が開校し、『おむつ利用者全員のおむつはずしの実施』に県内介護老人福祉施設が参加しました。

利用者さんの一人ひとりの自立支援の観点から、おむつゼロや活動力 (歩行) の向上を目指し、すべての職種が専門性を活かして連携協力して課題に取り組みました。

現場の職員は、それぞれの専門性をフルに発揮しました。施設としては、医師や家族へ取組みの説明と了解、そして財政面からもバックアップがありました。



その結果、水仙園は『おむつ利用者全員のおむつはずし』を達成することができました。これは、職員全員が一丸となって取り組んだ努力の結果だと思っています。

## ちょっと笑ってしまったこと

利用者さんに食べ物の好き嫌いはずせに、バランス良く食べることを勧めたところ、利用者さんから『あなたは、好き嫌いはないんか?』と質問され、口ごもってしまいました。

実際のところ、自分にはかなりの好き嫌いがあり、『矛盾しているな』と思いつつもアドバイスをしていただけです。

## 今後の目標

自立支援を念頭に、食事ケアの質を向上させることです。一人でも多くの利用者さんに、美味しいもの・好きなものを食べた時の笑顔や食べる楽しさを提供したいと思っています。

利用者さん全員のおむつがはずれたことで、利用者さんの体調が劇的に改善されています。おむつはずしの取り組みから、徐々に常食化 (ご飯、刻まないおかず) も進めており、利用者さんが以前より元気に生活されています。

そこで次の目標は、経営栄養の利用者さんに口からの食事摂取を勧めていくことです。年齢とともに様々な機能が低下していきますが、味覚機能だけは変わらないと言わ

れています。だからこそ、年をとっても『美味しい』の感覚をいつまでも感じて過ごしてほしいと願っています。

## 笑顔の素

利用者さんからの『ありがとう』と喜んでいただいたときの笑顔です。

## 上司からの「コメント」

看護職の主任として責任感も強く、リーダーシップを発揮しています。また、注意深い観察で早期発見と対応にも努め、利用者の方の看護面でのサポートに尽力してくれています。

何より、新たな課題に取り組む柔軟な思考力と判断力を兼ね備えており、これからは職場の意識改革の先頭に立つて組織の活性化に務めて欲しい。

## 取材を終えて

施設内にギャラリーが設けられており、地域の園児や利用者さんの作品など月ごとにパリエーション豊かな作品が展示されています。

施設が地域とのふれあいや交流を大切にされていることが、伝わってきました。

坂永さんには、施設長からも絶大な信頼を得て、その使命を果たしている印象を受けました。

『施設の職員全員がそれぞれの専門性を活かし、利用者さんのことを第一に考えているんです』という凛とした姿勢がとても印象的でした。